

CFA NEWSLETTER

グローバル金融アナリストの情報誌

No.054_2021年4月号

CONTENTS

Topics

- 祝合格！2020年12月CFAプログラム・レベルⅢ試験に日本から114名が合格
- CFA協会リサーチチャレンジ2020 国内ファイナル大会～一橋大学Bチームが完全優勝～
- エシックスチャレンジ初開催および概要
- Japan Investment Conference (JIC) 2020 Report - WOMEN IN INVESTMENT MANAGEMENT-
- ジャパン・インベストメント・カンファレンス(JIC)2021展望

Society Update

- 活動報告

CFA Institute News & Trend

- CFA協会ブログ No.500より

Dot-Com Redux: Is this Tech “Bubble” Different?

ITバブルの再来:今回はIT「バブル」と違うのか?

-
- 今後の主な予定
 - 事務局より

本ニュースレターでは、世界の公正な投資市場をリードするCFA®資格の認定・推進機関であるCFA協会の活動から、情報をお届けいたします。取材の参考資料としてご活用いただくことができれば幸いです。

CFA協会ならびに日本CFA協会の詳細はホームページをご参照ください。

■ CFA協会 / <http://www.cfainstitute.org>

■ 一般社団法人日本CFA協会 / <http://www.cfasociety.org/japan>

Topics

祝合格！2020年12月CFAプログラム・レベルⅢ試験に日本から114名が合格

2020年12月実施のCFAプログラム・レベルⅢ試験の結果が去る2月17日に発表され、日本国内からは114名の方々が晴れて合格されました。レベルⅠから長きにわたる努力の末に見事合格されました皆様に心よりお祝い申し上げます。

コロナ禍の影響で、2020年6月のCFA試験が12月に延期された結果、昨年6月の受験を目指されていた方々には一旦目標とする時点が遠のくことになり、気持ちを維持したり勉強の計画の

練り直しなどご苦労もあったことと思います。合格者の皆様が、CFA協会の資格要件を満たした上で正会員の手続きを済ませ、弊協会にも正会員としてご入会いただけることに期待いたしております。

コロナ禍はCFA試験にも大きな影響を及ぼしております。とりわけ、2021年2月以降、全レベルのCFA試験がコンピュータベース試験(CBT)に移行し、2021年は2月、5月、8月、11月に全レベルの試験が実施されることになりました。

た。昨年の6月試験が12月に延期されたことで、2020年の合格者がいなくなった代わりに、2021年に結果が発表される4回の試験の合計では、例年を大きく上回るレベルⅢ試験合格者が生まれることになりそうです。今後7月にも実施されるレベルⅠ試験を含め、各レベルから一人でも多くの合格者が生まれますよう願っております。

事務局長 中瀬康彦, CFA

CFA 協会リサーチチャレンジ 2020 国内ファイナル大会～一橋大学 B チームが完全優勝～

2020年は新型コロナウイルス感染症が蔓延する不幸な年ではありましたが、CFA協会リサーチチャレンジは多くの関係者のご尽力のおかげで無事開催することができました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、全てのイベントがオンライン開催となりましたが、大過なく大会を進めることができました。

今大会では前回大会に続き、過去最高タイとなる19チームにご参加いただきました。協会としては5月から準備を始め、8月5日のキックオフでスポンサーご挨拶、ルールならびに倫理規定説明、グレーダーおよびメンターリーダーからのアドバイス、参加チームの紹介に続き、担当メンターの抽選、そして最後に分析対象企業の発表を行いました。例年であれば、対象企業発表の際にはどよめきが起るものですが、オンライン開催ではその興奮が伝わりません。

今大会の対象企業は日本を代表する半導体製造装置メーカーである株式会社ディスコ(以下ディスコ)であり、参加学生にとっては技術やシリコンサイクルなどをどう分析に織り込むのが難しいと思われたかもしれませんが、協会としてはこのユニークな優良企業をどう分析してくれるかを楽しみにしていました。

参加学生は直ちに調査を開始し、8月下旬にディスコIR室・室長代理・鈴木寛之様より詳細な企業説明をいただき、9月には同社IR室による個別ミーティングを通じて、会社への理解を深めてもらいました。指導教官および運用業界の専門家であるメンターの指導を仰ぎながら、各チームは10月下旬に本文10ページ・参考資料最大20ページから成る英文投資推奨レポートを提出しました。2週間にわたるグレーダーによる厳正な審査の結果、上位6チームが決勝ラ

ウンドへ進む権利を得ました。

12月12日に行われた決勝大会では、各チームは事前に用意してきたプレゼン資料に沿って、10分間のプレゼンテーションおよび運用業界の専門家4名から成る審査員による10分間の質疑応答を英語で行いました。全審査員による評価に、先に提出済みのレポートの得点を合計した総合得点により、一橋大学Bチーム(チームリーダー: Doina Zavulan、指導教官: 中野誠教授、メンター: マニユライフ生命保険 岡田晃, CFA)が優勝の運びとなりました。6チームによる決勝大会は激戦でしたが、晴れて優勝した一橋大学Bチームは、レポートとプレゼンともに最高得点となる、言わば完全優勝を果たしました。半導体業界の事業環境見通し、ディスコの企業文化を含めた競争力および収益力などをベースとした財務分析、業績

予想ならびにバリュエーションなどが高い評価を得ました。



また、ディスコの事業構造の本質を的確に捉えていた点等が評価され、横浜国立大学Bチーム(チームリーダー:川内洋平、指導教官:大雄智教授、メンター:BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン王子田賢史)にディスコ賞が授与されました。

見事日本大会を勝ち抜いた一橋大学Bチームはさらに磨きをかけて録画したプレゼンテーション動画をアジア小地区大会へ提出しました。アジア小地区大会ではレポートおよびプレゼンテーションが評価対象となりましたが、残念ながらその次のアジア大会に駒を進めることはできませんでした。



今回で本大会も13回目を数えますが、参加学生の実力は着実に向上していることが感じられます。参加学生は学業や就職活動等の合間を縫って数か月を本大会に費やしており、非常にいい経験をしているとのフィードバックを受けています。ここまでの企業分析や英語でのプレゼンテーションの経験はなかなか得られるものではなく、また業界の専門家であるメンターとの交流も貴重なものであるようです。この大会をきっかけに資産運用業界に就職することを決めた学生や分析対象企業に関心を持つようになった学生もいます。レポートの書き方を学び、卒業論文で表彰された学生もいると聞きます。チームワークの大切さやリーダーシップを学んだとの声も多くあります。

本大会はプラチナスポンサーとしてSMBC日興証券、FACTSET、ゴールドスポンサーとしてPIMCO、東京海上アセットマネジメント、Invesco各社の支援を受けています。また、運営、グレーダー、メンターと数十名に及ぶボランティアのサポートがあって成り立っています。ここに改めて全ての大会関係者に御礼申し上げます。日本CFA協会では、これからの日本社会を背負って立つ有為な学生諸氏の実践的な学習の場として有意義な本大会をより広くプロモートしていくことを検討しています。

次回大会以降、参加大学チーム数をさらに拡大することも視野に入れており、その場合にはお手伝いいただくボランティアスタッフの拡充も必要となります。本大会ボランティアにご関心いただける方にはまた説明会等も開催させていただきますので、奮ってご参加いただければと思います。

リサーチチャレンジ・コミッティ・チェア
王子田賢史

エシックスチャレンジ^(*)初開催および概要

日本CFA協会は、CFA Institute APACが主催するエシックスチャレンジに2021年に初参加します。2021年の日本大会は、キックオフを6月20日(日曜日)、本大会を6月27日(日曜日)に開催することに決定しました。2021年は、コロナ禍を考慮しキックオフ・本大会ともにオンラインにて開催予定です。

(<http://www.cfasociety.org/japan/Pages/EthicsChallenge.aspx>)

エシックスチャレンジは、APACでは、2018年にCFA Instituteが主催する大会としてAPACの各ソサエティが参加してスタートしました。2020年は、シンガポール、マレーシア、パキスタンのソサエティが参加し、各国の優勝チームがAPACの王者をかけて戦いました。2021年は、上記3か国に加え、日本およびインドのソサエティが参加する予定です。APAC大会は、10月を予定しています。

(<https://connexions.cfainstitute.org/cfa-society-community-collaborates-to-host-impactful-apac-ethics-challenge>)

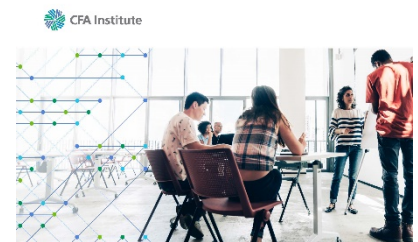
日本大会では、キックオフで今年のケースが発表され、参加チームは1週間かけてケースを議論・分析してプレゼンテーション資料を作成の上、本大会で優勝をかけて審判員(日本大会では3人を予定)へのプレゼンテーション・質疑応答に臨みます。APAC大会では、

キックオフから本大会までの期間がわずか2日に設定されています。2日間という短期間に新たなケースを議論・分析してプレゼンテーション資料の作成、審判員との質疑応答への準備等大変な時間的プレッシャーの中で戦う必要があります、その忍耐力も試される厳しいコンペティションです。日本大会、APAC大会ともにすべて英語で行われますので、かなりの英語力がないと参加自体が難しいですし、優勝を狙うのはさらに難しい大会といえます。

この大会に学生が参加する意義としては、資産運用業に従事するプロフェッショナルが実際の業務においてどのような倫理上のジレンマに遭遇するのかを体験できること、倫理にかかわる意思決定スキルを学ぶことができること、資産運用に携わるプロフェッショナルとのネットワーキングができることなどがあります。

弊協会としては、この大会を通じて、国内におけるCFAのブランド力を高めるとともに、参加大学の教職員・学生との連携を強化し将来のCFA資格取得者の増加につなげ、CFA Instituteのミッションである「高い倫理観を持つプロフェッショナルの育成」に寄与したいと考えております。

アドボカシー・コミティ担当理事
岡田晃, CFA



STRONGER ETHICS. BRIGHTER FUTURES.

CFA Institute's Ethics Challenge

The mission of CFA Institute and its member societies is to lead the investment profession globally by promoting the highest standards of ethics, education, and professional excellence for the ultimate benefit of society. The Ethics Challenge is held at locations around the world to instill strong ethics in the next generation of investment professionals to help them prepare for a successful career.

How does it work?

Teams of 3-5 members analyze a case containing a variety of ethical dilemmas faced by investment professionals. Students investigate and apply the CFA Institute Code of Ethics and Standards of Professional Conduct. All competing teams solve the same case and are tested with identical questions. The ethical dilemma involves one that formulated by students and discussed in making their decision. Teams then present their conclusions to a panel of judges for the chance to win the local challenge award.

(*) エシックスチャレンジ (Ethics Challenge)

エシックスチャレンジとは様々な倫理的なジレンマを含むケースを分析する大学対抗コンペティションです。3人からなる大学生・大学院生チームが参加し、ケースを議論・分析し、その内容を審判員に対して発表し、質疑応答を行うものです。各大学2チームまでの参加としています。発表は主として「CFA協会の倫理規範および職業行為基準」(倫理規範)に照らし違反がどこにあるかに焦点を当てますが、その行為がなぜ倫理規範に違反するのか、違反行為をどのように解決すべきかについて推奨する等いかに深く違反内容を理解しその対応策をいかに深くチームで議論し、提案するかが問われます。

JAPAN INVESTMENT CONFERENCE (JIC) 2020 Report - WOMEN IN INVESTMENT MANAGEMENT -

The virtual conference “Women in Investment Management” was successfully held on December 17, 2020, with nearly 300 participants on the day.



This is just an idea. For example, we could say, "Throughout the event, the speakers and panelists generously shared their insights around how a better gender balance is no longer a nice-to-have but rather a business imperative and a growth agenda.

The speakers also kindly offered concrete tips and best practices on how financial services organizations can improve gender diversity, increase productivity and encourage career development by designing an inclusive workplace."

All sessions were conducted in English. For details, please see the conference program: <https://www.cfasociety.org/japan/publications/JIC2020-Program.pdf>

We believe this conference was a first of its kind in Japan's financial services industry. The feedback has been wonderful and rewarding; we sincerely hope that this conference was valuable for many financial services organizations, both female and

male managers, and aspiring professionals.

Replays are available until June 17, 2021, at the replay registration site:

<https://www.cvent.com/c/express/d35cca25-7aac-4631-b82f-7d2bd76899bb>.

Also, please follow this link for the conference review article in Japanese (Goodway社による日本語の開催報告はこちらからご覧いただけます。):

<https://goodway.co.jp/fip/htdocs/jo4esbo0p-3636/>

JIC2020 Working Group

ジャパン・インベストメント・カンファレンス(JIC)2021展望

JIC2021に向けた準備も10月の開催を目指して始動しています！ JICのオンライン開催も大成功を納めた昨年のJIC2020に続いて2回目ということで、今年によりオンライン視聴を意識したイベント形態とするべく、夕方に2時間前後のセッションを三日間に渡ってお送りする予定です。イベントテーマについても、三日間に渡って開催するという特性を活かして3つのテーマを用意し、毎日異なるテーマを取り上げます。各テーマの詳細は今後検討を深めて参りますが、

1. Governance - ESG, myths

around ESG, CG code revision, TSE market structure change

2. Impact & Responsibility - SRI, impact investing, climate change, SDGs, decarbonization, etc.

3. Future of Finance in Japan - Tokyo international financial hub, financial literacy, women in finance, etc.

といった今日の、そしてこの先の金融業界において非常な重要な位置を占めるトピックについて、日本CFA協会のフラッグシップイベントに相応しいスピーカー・パネリスト陣を

お招きして充実のコンテンツをお届けできるよう企画運営スタッフ一同、精力的に活動を初めております。どうぞご期待ください！

* イベントに協賛いただける企業様は弊協会事務局(info@cfaj.org)までご連絡ください。

** 企画、イベント運営全般のボランティアにご興味がある方、弊協会事務局(info@cfaj.org)までご連絡ください。

JICコミッティ・チェア
今村文彦, CFA

Society Update

活動報告

このコーナーでは、日本 CFA 協会の各分野での活動状況をお知らせしております。

弊協会では常時ボランティアを募集しております。新型コロナウイルス感染予防対策の影響で対面でのネットワーク機会が限られている今日、協会活動は最良のネットワーク構築機会でもあります。ぜひ、事務局 (info@cfaj.org) までお問い合わせください。

コミッティ構成の再編

弊協会理事会では、今年度からコミッティ体制を再編し、以下の5コミッティで活動を進めています。

- アドボカシー・コミッティ
- メンバーシップ・コミッティ
- プログラム・コミッティ
- リサーチチャレンジ・コミッティ
- JICコミッティ (JIC=ジャパン・インベストメント・カンファレンス)

従来のインダストリーアウトリーチは、会長と執行理事が担うこととし、広報出版コミッティ、テクノロジー・コミッティはメンバーシップ・コミッティに統合するなどしています。

また1月理事会において、各コミッティのチェアとバイスチェア、コミッティに設けられるサブコミッティの担当者が任命(再任を含む)されました。サブコミッティには理事以外のボランティアリーダーも起用されました。

メンバーシップ

メンバーシップ・コミッティは、従来の広報出版コミッティの役割を統合し、ネットワーキング・キャリア開発、受験者サポート、広報・ブランディングという3つのサブコミッティ(SC)からなるコミッティに再編され、それぞれにボランティアリーダーが就任しました。以下、各SCごとに報告します。

ネットワーキング・キャリア開発: コロナ禍が続くため、引き続き人を集めるイベントの開催を自粛しています。2020年12月のCFA試験レベルⅢに合格さ

れた方々向けに、CFA協会正会員になる手続きを案内するオンラインミーティングを3月31日に開催し、新たにCFA資格を取得された方々をお迎えするオンラインイベントを5月13日に開催いたします。

受験者サポート: 今年のCFA試験日程に合わせて、5月試験向けに一連のレベルⅠ試験対策ウェビナー(オリエンテーション、指定電卓ワークショップ、財務分析、計量分析)を2月後半から3月上旬にかけて開催しました。コロナ禍に鑑み、従来のスタディグループ形成は、LinkedInに試験月ごとのグループを作成して対応していきます。4月にはレベルⅡ試験対策ウェビナー3回(会計1、会計2、デリバティブ)を開催いたします。今後も、CFA試験の頻度が増加したことに対応して、各レベルの試験対策ウェビナーを拡充するとともに、外部プロバイダーが提供する教材や学習機会を紹介してまいります。

広報・ブランディング: 新たにボランティアの方にご参加いただき、次号のNewsletterで金融分野のホットな話題を取り上げる特集記事を企画していただいています。今後はSNS(LinkedIn、Twitter)への情報発信を増やすべく準備を進めています。

プログラム

プログラム・コミッティでは、毎月2、3回程度のセミナーを企画・開催しています。

現在、東京を中心とした新型コロナウイルス感染拡大を受け、セミナーは

基本的にオンライン(ウェビナー形式)で開催しています。会員の皆様からは、便利で参加しやすくなったと好評をいただいております。通常通りの対面式のセミナーを開催する場合には、一斉メールやホームページにてお知らせします。

引き続き、ご関心のあるテーマのご提案、セミナー講師を務めていただける方のご紹介、セミナー当日の司会などを行っていただけるボランティアを募集しています。当協会事務局までお気軽にご連絡ください。

更に、今後は Study Groups というサブコミッティも立ち上げ、CFA Institute の Refresher Readings など、上記セミナーと同様に PL Credits を獲得できる教材を使った勉強会を開催する予定です。こちらについても、ご興味のある方は、弊協会事務局までお知らせください。

アドボカシー

今年前半の新たな取り組みとして、CFA協会アジア太平洋地区で開催されているエシックスチャレンジに参加し、日本大会を6月に開催いたします。エシックスチャレンジについては4ページを参照ください。

ソートリーダーシップ: 昨秋の菅総理大臣所信表明で明らかにされた「2050年までの温室効果ガス排出ゼロ」を契機に注目を集めている「気候変動リスクと機会」につき、新たに「気候変動リスクと機会」5回連続講座(ウェビナー)を企画し、2月から開催を開始しました。開催済みの3回分については、合計1,183

名の登録者/814名の視聴者にご参加いただき、この分野への高い関心が伺えます。5回連続講座の構成は下の表を参照ください。

ポリシー & エンゲージメント: 4月7日

に金融庁HPで発表されたCGコード改定についてウェビナーを計画中です。これに合わせ、弊協会でもサーベイ方式にて意見収集を行っていく予定です。

エシックスチャレンジ: 4ページを参照。

リサーチチャレンジ

2ページをご覧ください。

「気候変動リスクと機会」5回連続講座(ウェビナー)

	開催日	演題	講師	登録者/視聴者
第1回	2/2	CFA Institute “ Climate Change Analysis in the Investment Process”	Matt Orsagh, CFA Senior Director, Capital Markets Policy at CFA Institute ほか	174名/63名 (非会員を含まず)
第2回	3/8	日本の取組みと世界の動き	金井 司 三井住友トラスト・ホールディングス株式会社 フェロー役員兼 チーフ・サステナビリティ・オフィサー 池田 賢志 金融庁 チーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー	366名/254名
第3回	4/8	GPIFのESGに関する取組みとポートフォリオの気候変動リスク・機会分析	塩村 賢史 GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)投資戦略部次長	643名/497名
第4回	5/11	カーボンプライシング(炭素税や排出量取引といった市場を活用した経済的手法)のポートフォリオ運用へのインプリケーション	Michael Azlen, CAIA, Founder and CEO, Carbon Cap Management LLP Ben Yeoh, Senior Portfolio Manager, RBC Global Asset Management, UK	申込受付中
第5回	6月中	TCFD開示とSASB基準(仮)	(調整中)	(調整中)

Topics等でご紹介しますイベントは、その多くの部分がボランティアの皆さまのご協力で運営されています。ご興味のある方はお気軽に弊協会事務局までお声がけください。 info@cfaj.org

CFA Institute News & Trend

日本CFA協会・翻訳グループでは、CFA協会が発行する刊行物、ブログ等の翻訳をしており、翻訳ボランティアを募集しています。少しでもご興味・ご関心があれば、事務局(info@cfaj.org)までお気軽にお問い合わせください。

おかげさまでCFA 協会のホームページに掲載されているブログの翻訳も500回を超えました。今回はその一例として「No.500、ITバブルの再来：今回はIT「バブル」と違うのか？」を紹介します。その他のブログの翻訳はこちらのリンクをご参照ください。

<https://www.cfasociety.org/japan/Pages/Blog.aspx>

Dot-Com Redux: Is this Tech “Bubble” Different?

ITバブルの再来：今回はIT「バブル」と違うのか？

[デレック・ホーツマイヤー](#)

20年以上前の2000年3月10日、[ナスダック総合指数は5,132ポイントと当時の史上最高値を記録しました。](#)

しかしその後、真逆さまに下落したのです。

ITバブルが弾け、ナスダックはその見事な高値から大きく下落に転じ、その後2年間に約75%下げました。結局、指数が前回高値まで回復し、その水準を超過するまでにおよそ15年の月日を要することになるのです。

最近のナスダックは相場変動が大きく上昇一辺倒ではないものの、多くの投資家は今日のナスダックを見て既視感を覚えています。1990年代後半のITバブル期を引き合いに出すような言葉で指数のパフォーマンスを言い表し始めたのです。またアナリストは、新たに台頭してきたテクノロジー銘柄のバリュエーションを「泡沫」「行き過ぎ」、そして往々にして「バブルのような」と評しています。

では、こうした状況をどう考えればよいのでしょうか？ナスダックは再び、ITバブル崩壊時

に匹敵する大幅な相場下落に向かっているのでしょうか？

この疑問に答えるべく我々は、足元のテクノロジー銘柄を巡る環境と、2000年代のITバブル当時を比較しました。ナスダック市場に2000年3月10日と2020年9月1日に上場していた全企業について、テクノロジー中心企業を15のサブセクターに分類しました。そして15のサブセクターそれぞれについて、株

価純資産倍率(PBR)と株価売上高倍率(PSR)の中央値を算出し、2つの時点の値を比較しました。

なぜ一般的な株価収益率(PER)を使わなかったかと言えば、2000年3月10日のサンプルに含まれる企業の半数以上が、当時赤字でありPERが意味をなさなかったからです。

ではこの比較から何がわかったのでしょうか？

要するに、大半のテクノロジー株のサブセクターのバリュエーションは、ITバブル当時とはまだ程遠いということです。

それどころか、2000年3月のテクノロジー企業のPBRは、中央値が2020年9月時の2倍以上でした。またPSRで見ると、2000年3月のテクノロジー企業の中央値は3倍以上でした。

2020年9月のバリュエーションが2000年3月に近づいていたのは電子ゲームと科学機器の2セクターだけでした。電子ゲームの2020年9月のPSRの中央値は

	March 2000 P/B	March 2000 P/S	September 2020 P/B	September 2020 P/S
Biotechnology	19.66	55.51	3.88	18.10
Communication Equipment	10.27	6.67	2.01	1.19
Computer Hardware	6.05	2.49	1.43	1.04
Electric Equipment	2.55	2.10	1.22	1.29
Electronic Components	3.68	1.68	2.05	0.69
Electronic Gaming	5.17	4.36	4.71	5.68
Information Technology	3.68	1.56	3.19	0.93
Internet Content	7.25	32.44	4.52	3.15
Internet Retail	5.35	8.98	6.57	1.47
Scientific Equipment	2.81	2.36	3.07	2.60
Semiconductor	13.85	12.76	3.32	3.95
Semiconductor Equipment	10.92	6.56	3.75	4.52
Software: Application	10.57	13.39	5.64	3.99
Software: Infrastructure	9.07	8.71	6.44	4.38
Telecom	8.70	11.59	1.55	0.90

2000年3月よりも高く、一方、科学機器企業のPSRとPBRの中央値は2000年3月上回りました。

しかし、この2つを除くその他13のセクターすべてのバリュエーションは、2020年よりも2000年の方が高かったです。特にインターネット・コンテンツのPSRの中央値は、2020年が3.15倍だったのに対して、2000年は32.44倍、一方、半導体企業のPBRの中央値は、2020年の3.32倍に対して2000年は13.85倍でした。

我々の調査によれば、現在のテクノロジー業界のバリュエーションは、ITバブル崩壊前夜の過度な水準には届かないものの、上昇傾向にあることがわかりました。事実、大半のサブカテゴリーのPBRとPSRは、1998年から1999年のITバブル前を除くそれ以外のほぼすべての年を上回っています。

たとえバリュエーションが2000年3月の水準と比べて2倍や3倍に上昇する必要があったとしても、専門家はきっとバブルを推測し警鐘を鳴らし続けるでし

よう。「テクノロジー株は割高で、ITバブル期の水準に近付きつつある」と。

しかし我々の分析は、こうした懸念は行き過ぎであり、警告に耳を傾けなくても大丈夫であることを示唆しています。今のテクノロジー株時代がいかなるものであれ、ITバブルの再来ではないのです。

(翻訳者: 中山桂, CFA)

今後の主な予定

4月以降、日本CFA協会が主催する主なセミナー等の予定は以下の通りです。

●4月8日(木)

ウェビナー

タイトル: 気候変動リスクと機会 5回シリーズの第3回目

「GPIFのESGに関する取組みとポートフォリオの気候変動リスク・機会分析」

講師: 塩村賢史氏 GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)投資戦略部次長

時間: 12:00 - 13:00

会費: 無料

●4月9日(金)

ウェビナー

タイトル: レベルII対象CFA試験対策ウェビナー3回シリーズ(第2回 会計1)

講師: 大野忠士氏, CFA

筑波大学 ビジネスサイエンス系 名誉教授

時間: 19:00 - 20:30

会費: アソシエイト会員: 無料、一般受験者: 3,000円

●4月14日(水)

ウェビナー

タイトル: レベルII対象CFA試験対策ウェビナー3回シリーズ(第2回 会計2)

講師: 大野忠士氏, CFA

筑波大学 ビジネスサイエンス系 名誉教授

時間: 19:00 - 20:30

会費: アソシエイト会員: 無料、一般受験者: 3,000円

●4月16日(金)

ウェビナー

タイトル: 不動産市場の最新動向と見通し～新型コロナの不動産市場へ循環的・構造的影響の整理と展望～

講師: 佐久間誠氏(株式会社ニッセイ基礎研究所 金融研究部 准主任研究員)

時間: 19:00 - 20:30

会費: 日本CFA協会会員(正会員、準会員、アソシエイト会員): 無料、受験者: 2,000円、非会員: 3,000円

●4月20日(火)

ウェビナー

タイトル: コーポレートガバナンス・コード2021年改訂について

講師: 島貴まどか氏(金融庁企画市場局企業開示課課長補佐)

時間: 19:00 - 20:30

会費: 無料

●4月21日(水)

ウェビナー

タイトル: レベルII対象CFA試験対策ウェビナー3回シリーズ(第3回 デリバティブ)

講師: 大野忠士氏, CFA

筑波大学 ビジネスサイエンス系 名誉教授

時間: 19:00 - 20:30

会費: アソシエイト会員: 無料、一般受験者: 3,000円

●4月26日(月)

Webinar

Title: Japan Reinventing Itself as a Global Financial Hub: Challenges and Policy Choices

Keynote Speaker: Hiroshi

Okada, Director, Strategy Development Division, Japanese Financial Services Agency

Host of Panel Discussion: Zuhair Khan, CFA, Senior Portfolio Manager, UBP Investments

Panelists:

1. Christian Pecher, CFA, Head of Research, J.P. Morgan Asset Management

2. Laurel Teo, CFA, Board member, CFA Society Singapore

3. Mark Lazberger, CFA, Founding Partner, Omnia Capital Partners

4. Shota Matsuzawa, Deputy Director, FinTech and Innovation Office, FSA

Time: 18:00 - 19:00

Venue: Online Zoom

Language: English

Fee: Free

●4月28日(水)

【CFA JAPAN BOOK CLUB #13 Online】

Theme: Book of this month: "Thinking, Fast and Slow"

Written by Daniel Kahneman

Time: 19:00 - 20:30

Language: English

Fee: Free

●5月11日(火)

Webinar

Title: "Climate Change Risks and Opportunities", The 4th Session of 5-serial Webinars

Implications for portfolio management of carbon pricing (economic method utilizing markets such as carbon tax and emissions trading)

Speakers: Michael Azlen, CAIA, Founder and CEO, Carbon Cap Management LLP, Ben Yeoh, Senior Portfolio Manager, RBC Global Asset Management, UK

Time: 18:30 - 20:00

Venue: Online Zoom

Language: English

Fee: Free

事務局より

早いもので昨年の新型コロナウイルス感染症拡大から一年が経過しました。残念ながら世界的にもまだ感染者数は下げ渋っているようです。今年からCFA試験はすべてCBT(Computer Based Testing)となり、実施頻度が増加しました。

弊協会では感染防止の観点から、この一年間はあらゆる教育イベントをオンライン形式で配信して参りました。オンラインでのセミナーに比べ、気軽にご参加いただけるようで、以前より多くの

方々にウェビナーを視聴していただいております。コロナ禍が収束してきたら、オンラインとオンサイトのハイブリッド型イベントを織り交ぜて開催することも検討しております。

これからも弊協会では通常のセミナーに加えて、エシックスチャレンジ、リサーチチャレンジ、JIC等様々なイベントを企画して参ります。どれも多くのボランティアの方々のご協力なくしては運営できず、お忙しいスケジュールの中、お時

間を捻出してくださることに心から感謝しております。

今後もボランティアの方々が楽しく活動していただけるよう魅力ある協会運営に努めて参りたいと思います。皆様からもリクエスト、アドバイス、アイデアなどありましたらぜひ事務局までお寄せください。

事務局



[報道に関するお問い合わせ先] 日本CFA協会 事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-7
大手町フィナンシャルシティ サウスタワー5階
Tel: 03-3517-5471 / Fax: 03-3517-5472
E-mail: info@cfaj.org
Website: <http://www.cfasociety.org/japan>